

特許出願公告及特許拔萃

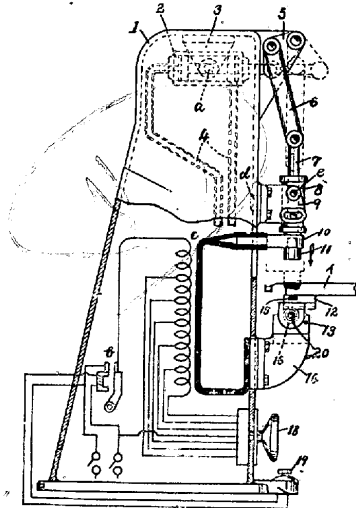
特許公告拔萃

拉伸機用ダイスの製作方法 (昭和 15 年特許出願公告第 154 號, 公告 15-1-17, 東京, 立川飛行機株式會社) 本發明は所要形状の型材を造り該型材の一端部を残し他端に至るに従ひ漸次平になる如く展開し之をダイス鑄型内に置き型材構成材料に熔着せざる材料を熔融して注入し前記型材を埋置せるダイスを製作し次に前記型材を引き抜いて拉伸機用のダイスを製作する方法に係るものである。

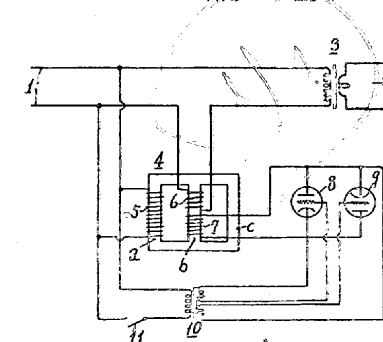
齒科用白色合金 (昭和 15 年特許出願公告第 177 號, 公告 15-1-17, 東京, 池下辰次郎) 本發明は Mn 0.2~6%, Cr 5~20%, Ag 0.2~7%, Fe 0.5~10%, 残り Ni よりなる白色合金に係るもので金銀の鑲着性よく齒科用又は裝飾用として有効なものである。

熔接機に於ける電流及加壓位置可變裝置 (昭和 15 年特許出願公告第 202 號, 公告 15-1-17, 豊中市, 阿部嘉藏) 本發明は

圖に示す如く加壓杆 (7) 及之と被熔接片を介して對向する受壓電極 (12) を共に被熔接片の状態に適應し主體 (1) に対し自動的に前後左右任意に擺動し得べく設け且受壓電極 (12) の一部には加壓電極 (11) より電流を配分すべき電氣絶緣體 (15) を嵌設し之が上面を電極 (12) 面に露出せしめ該電氣絶緣體 (15) の位置を受壓電極 (12) と共に調節臺 (13) に対し調節し得る様嵌合した熔接機に於ける電流及加壓位置可變裝置に係る。



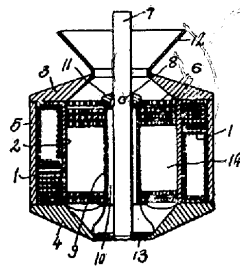
電氣抵抗熔接裝置 (昭和 15 年特許出願公告第 203 號, 公告 15-1-17, 大阪, 大阪電氣株式會社) 本發明は圖に示す如く二次側に熔接端子を有する熔接用變壓器の一次線輪と三脚變壓器の側脚に巻回せる一次線輪とを電源電壓にて附勢すべくなし該三脚變壓器の中央脚に巻回せる二次線輪を其の誘起電圧力電源電壓に等しく且之れと方向相反する如く熔接用變壓器の一次回路に直列に接続して



非熔接時には該變壓器への供給電壓を零となし熔接時には三脚變壓器の中央脚に設けた三次線輪回路を放電管を介して短絡せしめて前記の二次誘起電壓を消滅せしむる様構成した抵抗熔接裝置に係るものである。

電磁分離裝置 (昭和 15 年特許出願公告第 207 號, 公告 15-1-17 東京守屋三郎) 本發明は圖に示す如く非磁性材料にて作れる筒狀體を電磁線輪にて包圍し且筒狀體の上下に磁性材料製端材を設

け斯る筒狀體の室所内に磁性材料製の細長版を筒狀體内の磁力線方向に並行せしめ且僅少の間隙を與へ網狀に形成してなる篩を多數重合的に且夫々僅少離隔して收納し各篩を構成する細長版の兩側端邊に極を生せしめて該部分に磁生物を吸引附着せしむる様構成した電磁分離裝置に係るものである。

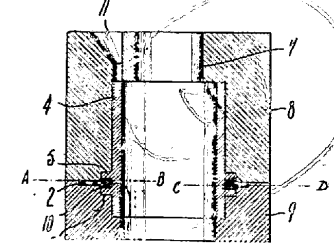


亞鉛及マグネシウムの電解的分離法 (昭和 15 年特許出願公告第 258 號, 公告 15-1-20, 大阪市, 帝國人造絹絲株式會社) 本發明は硫酸亞鉛及硫酸マグネシウム混合溶液を適當に選定せる陰極と活性鉛を陽極とし電解し金屬亞鉛を生成せしめ次て電解の進行に伴ひ水酸化マグネシウムを生成せしめて亞鉛とマグネシウムとを分離する方法である。

鑄接用熔劑 (昭和 15 年特許出願公告第 261 號, 公告 15-1-20, 東京, 村越清一郎) 本發明は硼酸加里一モル及硼酸曹達一モル, の分子量比混合物を水中に分散懸濁せしめたる後非化加里一ニモル, 酸化ナトリウム一ニモル及硼酸六ニモルを添加密閉する事を特徴とする鑄接用熔劑の製造法に係るもので鋼, 不銹鋼のみならず銅系合金等にも使用出來且鑄接部分が黒變する事なく熔劑は水洗により簡単に除去出來るものである。

材料の硬度測定用裝置 (昭和 15 年特許出願公告第 281 號, 公告 15-1-22, 獨逸國, カール, ツァイス, ステイフツング) 本發明は圖に示す如く顯微鏡の對物レンズの前部レンズに刻印生成體を裝備した事を特徴とする被検査材料に刻印を生成する爲の硬質材料製の刻印生成體と刻印生成體により生成した刻印を測定する顯微鏡とを有する材料の硬度測定用裝置に係るものである。

鑄造金屬體に鑄込金屬片を緩嵌する鑄造法 (昭和 15 年特許出願公告第 292 號, 公告 15-1-22, 大阪市, 牧野義太郎) 本發明は鑄造金屬體と接觸する表面に耐火性物質の粉末を塗布して塗布層或は炭化性物質を貼着して被層を構成せしめたる鑄込金屬片を分割し得る外型にて挾持せしめ該型内に鑄造金屬を注入して鑄造金屬體に鑄込金屬片を緩嵌する鑄造法で鑄造金屬材と鑄込金屬片とを一體のものとなし且鑄込金屬片の脱落する事を防止し得るものである。

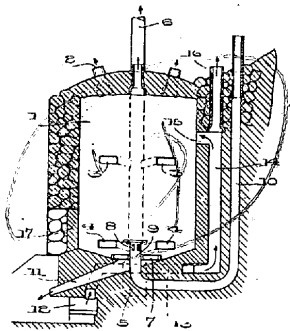


パラヂウムを含める白金合金より白金及パラヂウムを回收する方法 (昭和 15 年特許出願公告第 310 號, 公告 15-1-22, 造幣局長) 本發明は粘土製隔膜により遮隔せる鹽酸中の一の方に白金片を浸漬し之を陰極とし他方にパラヂウムを含める白金合金を浸漬し之を陽極となし該兩極間に交直重疊電流を通し電解作用により上記陽極に於ける白金及パラヂウムを鹽酸中に溶出せしむる工程と斯くして得たる溶液中に鹽化アンモニアを加へ鹽化白金アンモニアの

沈澱を生ぜしめて之を分離採取し次にパラヂウムは鹽化パラヂウムアミンとして沈澱せしめて之を分離採取する工程との結合よりなる白金合金よりの白金及パラヂウムの回収方法に係るものである。

青白色の光澤を有せざるクロム鍍金法 (昭和 15 年特許出願公告第 311 號, 公告 15-1-22, 金澤, 宮崎増次郎) 本發明はクロム鍍金液に對しアンチモンの粉末を混入溶解せしめ更に之に炭酸亜鉛, 硫化アルミニウムの粉末の一種若くは兩粉末を各々一種宛順次混入溶解せしめたる液を鍍金液として電氣鍍金をなすクロム鍍金法に係るもので青白色の光澤を有せざる一見塗料を塗布したる如き厚重な鍍金層を形成し以て不滑性でスリップせざる特徴を有するものである。

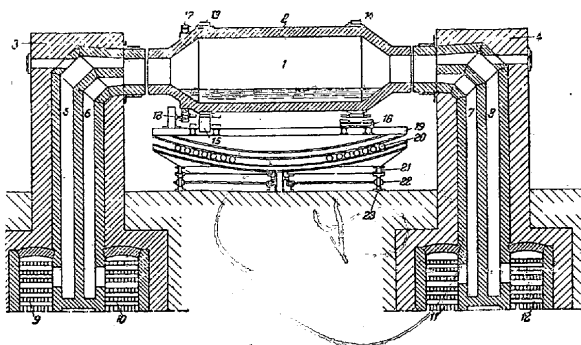
自燃式硫黄精煉装置 (昭和 15 年特許出願公告第 374 號, 公告 15-1-25, 東京, 原田省吾, 外 1 名) 本發明は圖に示す如く石又は煉瓦等にて築造せる爐室を數個の排出口を有する天井にて被ひ爐室の側壁に沿ふて下方に凝縮物捕集室を設けたる排氣筒を備へ之を上下二段以上の位置に於て爐室内に相通せしめ爐室の錐形下底上に硫黄鑽石を支持すべき格子狀假底を架し中心部を排氣通路に連ね下底下には別に燃焼室を具へ餘焔は爐室底下に敷置せる焔道を経て爐室内の稍々上位に噴出すべく構成した硫黄精煉装置に係る。



壓出による金属片の製造方法に関する改良 (昭和 15 年特許出願公告第 443 號, 公告 15-1-30, 英國, ハイ, デューテイ, アロイス, リミテッド) 本發明は壓出處理の進行する時型或は壓出孔に對し側方へ滑走する一乃至數片にて啣子の運動に應じ型或は壓出孔を變化せしめ壓出片に對し横斷面にて漸縮狀其他の變化を附與することよりなる壓出により金属片を製造する方法に係る。

鐵又は鐵合金より成る被鍍金物の鍍金前に於ける表面清淨法 (昭和 15 年特許出願公告第 453 號公告 15-1-30, 海軍大臣) 本發明は鐵又は鐵合金に鍍金せんとする場合豫め硫酸 5~65% の水溶液にアルカリ, アルカリ土金属, Ni, Co 等の硫酸鹽の一種又は二種以上を 1~20% を添加せる液に被鍍金物を浸して陽極とし電流を通して被鍍金面を清淨となす方法に於て陽極側電流密度を cm^2 當り 15~40. a. p. とす事の特徴とする鐵又は鐵合金より成る被鍍金物の鍍金前の表面清淨法に係る。

固定せる爐頭を備ふる廻轉反射爐 (昭和 15 年特許出願公告第 454 號 公告 15-1-30, 東京, カール, クライヤー) 本發明は

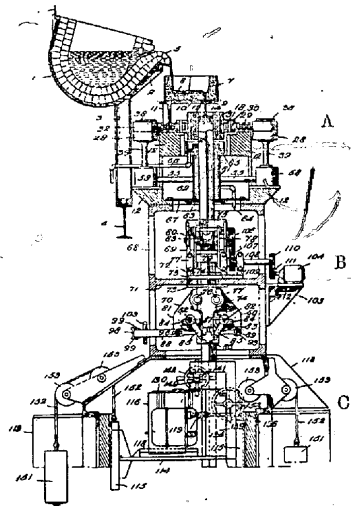


特許第 124730 號の改良に係るもので原發明では廻轉盤を爐と共に垂直軸の周りに 180 度廻轉すべくし斯くて燃料を節約し有効に熔解をなし得る如くせるものであるが本發明では更に廻轉反射爐に二つの同種の煉瓦積せる固定式爐頭を設け且之等の爐頭を蓄熱室又は復熱室 (豫熱回収室) と連結せしめて爐頭にガス又は空気を供給する爲の二つの渠路を設け斯くて爐を廻轉する事無くして交互に兩側より加熱せしめ得ると同時に原發明の利點をも利用し得る如く構成したものである。

砂鐵を原料とする製鐵方法 (昭和 15 年特許出願公告第 455 號, 公告 15-1-30, 東京, 彦坂理一) 本發明は砂鐵に弗化曹達若くは弗化加里等の弗化アルカリ鹽を添加して之を熔鑄爐又はキヌボラに装入し砂鐵の熔融状態に於て之に含有せらるゝチタニウムを弗化チタン酸鹽として除去し砂鐵より容易に鐵を得る方法に係るもので従來の砂鐵熔鑄法に於ける障害即ち還元度の低下爐壁の腐蝕鑄滓の粘着性等を除去するの効果を有するものである。

連續金属鑄造装置

(昭和 15 年特許出願公告第 515 號, 公告 15-2-5, カナダ國, ゼ, インターナショナル, ニツケル, カムパニー, オブ, カナダ, リミテッド) 本發明は圖示する如く兩端を開口せる長手方向に分離せる鑄型より形成せしめ其の各部を鑄型内を金属が通過する間其の軸線に對し横方向に振動せしむる手段を設けた連續金属鑄造装置に係るものである。



銅コバルトニツケル珪素合金 (昭和 15 年特許出願公告第 531 號, 公告 15-2-5, 金属材料研究所長) 本發明は $\text{Co } 0.2\sim 1.5\%$, $\text{Si } 0.3\sim 1.8\%$, $\text{Ni } 0.2\sim 1.5\%$, (但 Co と Ni との比 $2.0\sim 1.0$ 對 1.0 にして兩者の總和は Si 重量の $2.7\sim 1.0$ 倍の割合とす) 銅殘量より成る Cu-Co-Ni-Si 合金に係るもので極めて著大なる時效硬化性を有し且導電性良好で耐蝕性に富み鍛造性鑄造性共に優れたる特徴を有するものである。

銅コバルト合金の改良 (昭和 15 年特許出願公告第 532 號, 公告 15-2-5, 金属材料研究所長) 本發明は $\text{Co } 0.1\sim 2.5\%$, とアルカリ金属 Li , Na , カリウム, 及アルカリ土金属 Ca , Sr , Ba , の一種又は一種以上を $0.1\sim 1.5\%$, 殘部銅より成る Cu-Co 合金の改良に係り適當の熱處理により顯著なる時硬性を現はし高導電性と大なる強度とを有する特徴を有するものである。

コバルト珪素銅合金の改良 (昭和 15 年特許出願公告第 533 號, 公告 15-2-5, 金属材料研究所長) 本發明は Co と Si の重量比 $1\sim 1.8$ 對 1 にして兩者の和が $0.4\sim 3.6\%$ 殘部 Cu より成る Co-Si-Cu 合金に係るもので熱處理硬化性大なるの特徴を有する。

コバルト鐵亞鉛銅合金 (昭和 15 年特許出願公告第 534 號, 公告 15-2-5, 金属材料研究所長) 本發明は $\text{Co } 0.2\sim 1.5\%$, $\text{Fe } 0.1\sim 2.0\%$, $\text{Zn } 0.1\sim 4.5\%$, $\text{Cu } 92\sim 98\%$, より成る合金で耐熱性大で時效硬化性を有し鍛造性, 鑄造性共に良好なるの特徴を有するものである。